

北海道小樽水産高等学校 漁業ガイダンス 漁師の仕事!知る授業
実習設備が充実している北海道小樽水産高等学校

3月17日、北海道小樽水産高等学校で、漁業ガイダンス「漁師の仕事!知る授業」が開催された。本ガイダンスは、漁船漁業の根幹を成す日本人漁船員と船舶職員の後継者確保・育成を目的として、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが主体となり、全国の水産高校で開催している。

ガイダンスの当日は、本校海洋漁業科2年生25人が参加し「捕鯨操業の特色や船型を紹介するブース」「遠洋マグロはえ縄の操業形態を紹介するブース」「大中型まき網および海外まき網漁業の操業形態と漁獲する魚種を紹介するブース」「遠洋カツオー本釣りの操業形態を紹介するブース」などの7つに分かれ、それぞれ15分間の説明と質疑応答が行われた後、次のブースに移る形式で行われた。

参加企業はそれぞれ、船内生活などについて動画や画像を活用して説明したほか、現役船員の体験談をとおして、船酔い対策、給料の水準、休漁期の居住地や外国人とのコミュニケーションなどについてわかりやすく説明し、生徒たちは漁船漁業と船員職業への理解を深めた。

参加企業は▽開洋漁業株式会社▽株式会社丸吉▽株式会社カネダイ▽共同船舶株式会社▽住吉漁業株式会社▽日光水産株式会社▽共和水産株式会社で、本組合も将来、船員を目指す生徒たちへ、船員職業の魅力を伝えるため、同校の船員職業ガイダンスに参加している。

小樽水産高等学校・建学の精神=鋼鉄のような力強さと頑張り抜く粘り強さ

北海道小樽水産高等学校の校章は、明治38年10月19日に制定され、その当時、世界に誇る漁場に生きる北海道の人びとにとって、水産業の開発は急務であり、同校にかかる期待も大きく、それにふさわしい人材の育成を求めている。

同校創設以来、在校生は、この校章のもとにその自覚と気持をもって学業に励み立派な社会人として水産界の担い手として巣立っている。

これから船員を目指す生徒の将来に期待している。

「海員だより」